性役割態度が職業興味に及ぼす影響

—日本の高校生を対象とした検討—

胡 琴菊

(愛知学院大学)

キーワード キャリア発達教育 性役割態度 職業興味

The influence of gender role attitudes on the vocational interest

Qinju HU

(Aichi Gakuin University)

Key words: career development and education gender role attitudes vocational interest

問題目的

現在の高校生の進路選択は、あまり深く考えることなく自己の成績に照らして、行けるところを安易に選択する傾向がある。子どもたちが明確な目的意識を持って学業に取り組み、主体的に自己の進路を選択・決定できるように「キャリア発達教育」の推進が学校教育の現場においても強く求められている(文部省, 2011)。成熟した職業決定を可能にするためには、職業興味や価値観について理解を深めることが必要であることは古くから指摘されて来た(Super, 1957)。性役割の価値観のひとつである性役割態度(伊藤, 1997)に関する研究が多く行われてきた。性役割態度が、職業に対する考え方や行動に大きな差異をもたらしてきたことはRichardson(1979)を初め多くの研究者が指摘している。

胡(2009)は、中国の高校生を対象にした性役割態度と職業興味との関連について検討し、性役割態度は女子のみ2つの興味分野に弱い影響を示していた。本研究は、日本の高校生を対象に、個人変数として性別に加え、家庭や職場における男女の役割に対する態度としての性役割観が職業興味への影響について検討する。

方法

調査対象 日本の3つの高校で、有効回答数は434名。平均年齢は17.0歳(標準偏差0.73)。

調査手続 授業中に集団で一斉実施され、所要時間は約20分～30分程度であった。

調査内容 質問紙には、①性役割態度15項目に対して、回答者の家庭や職場での男女の役割の各意見への賛成の程度を4段階で評定。②職業興味60の質問項目に対して、将来その職業に必要な能力や資格を身に付けることに対する関心の程度を4段階評定。

結果

1. 尺度構成

(1)性役割態度の下位尺度構成 プロマックス回転による主成分分析を施し、「平等主義的態度」と「伝統主義的態度」2因子を抽出した。これら2つの因子で全体の分散の41%が説明され、Cronbachの α 係数は.80、.67で、尺度間の相関係数は-.34で、0.1%水準で有意な負の相関が認められる。

(2)職業興味尺度の下位尺度構成 胡(2008)と同一のものであり、「教育・医療・福祉分野」、「専門的・事務的分野」、「技術的・技能的分野」、「芸術・マスコミ・サービス分野」の4つの下位尺度からなる。詳細については、胡(2008)を参照されたい。

2. 尺度間の相関

t検定結果、性役割態度においては、男女差はともに高度に有意であり、女性の方が男性より平等主義であり、男性の方が女性より伝統主義であることが示された。男女込み分析結果では、性役割態度の2つ下位尺度では、平等主義的態度とすべての職業分野への興味との間に有意な負の相関が見

られ、一方伝統主義的態度は、すべての職業分野への興味との間に有意な正の相関が示された。

3. 職業興味に対する回帰分析

変数間の関連性をみるために、職業興味を従属変数、性別と性役割態度を独立変数とした重回帰分析を行い、有意な標準偏回帰係数より、平等主義的性役割態度は、「技術的・技能的分野」を除く3つの尺度において、有意な負の標準偏回帰係数が得られ、伝統的態度は「技術的・技能的分野」のみにおいて、有意な正の標準偏回帰係数が示された。

考察

本研究は日本の高校生を対象にした性役割態度と職業興味との関連について検討し、性別が「専門的・事務的分野」「技術的・技能的分野」への職業興味に影響を及ぼすとともに、性役割態度は職業興味に影響を与えていることが明らかになった。

「技術的・技能的分野」のような男性の多い職業に対して、平等主義的性役割態度が興味への影響力を持たないが、伝統主義の方の影響力が強かった。また、「教育・医療・福祉分野」、「専門的・事務的分野」、「芸術・マスコミ・サービス分野」の職業に対して、平等主義的性役割態度がマイナス影響力を示している。青年期は周囲から伝達される性役割期待を受身的に取り入れてきた児童期以前とは異なり、自己の価値観と社会の期待と照らし合わせながら、主体的に性役割を形成していく時期であるとされている(伊藤, 1997)が、今回の調査者は「男性も家事・育児を行うべきだ、女性も仕事を持つべきだ」という今や一般的になった価値観に影響されて、性役割に対する考え方が浅いと考えられる。現実には心身適応、環境条件など様々な制約要因が働いており、生徒は必ずしも伝統的に女性中心とされる職業、中立的な職業に興味を持つわけではないのも思われる。

こうしたことから、性役割態度と職業興味の間には、社会的、心理的な様々な要因による媒介のメカニズムが存在すると考えられる。今後の課題として検討していきたい。

引用文献

胡琴菊 2008 日本の高校生における職業興味—職業興味尺度の構成— 日本教育心理学会第50回総会発表論文集, 110.

胡琴菊 2009 性役割態度と職業興味との関連—中国の高校生を対象とした検討— 日本キャリア教育学会第31回研究大会発表論文集, 81-82.

伊藤裕子 1997 青年期における性役割観の形成 風間書房
文部科学省 2004 キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書

Richardson, M.S. 1979 Toward an expanded view of careers. *Counseling Psychologist*, 8, 34-35.

Super, D.E. 1957 The psychology of careers. New York: Harper & Row.